

◆ 2022 年 度 活 動 報 告 シ ー ト ◆

団体名：熊谷市立熊谷東中学校環境委員会

25A-25

代表者：校長 伊藤 幸男

URL : <http://www.kumagayahigashi-j.ed.jp/>

1. 活動が必要とされた状況

職員玄関に設置していた普及啓発用の水槽が老朽化し、水温管理が非常に大切なムサシトミヨの飼育に影響が心配されるクーラーやフィルターの劣化があるため、市内小学校と設備を統一し、水槽装置を新設する。

2. 活動の内容（実施時期、参加人数、活動内容など）

(1) 日常の活動

クラスごとに当番制で活動を行った。ムサシトミヨ池の清掃、ザリガニの駆除、網の清掃。その他鯉の世話、排水溝の清掃、植物の世話、グリーンカーテンの設置



(2) 生徒朝会（10月18日、学校内放送）

〈参加者〉前期環境委員 24名

〈内 容〉放送による活動発表を行った。委員会の活動に興味を持ってもらえるよう、クイズを行った。調査の紹介も行い、当日のボランティア参加者を募った。



(3) ムサシトミヨ繁殖調査（11月15日、本校中庭にて）

〈参加者〉環境委員 34名、有志ボランティア生徒 3名、熊谷市環境政策課、さいたま水族館、ムサシトミヨ保護センター、ムサシトミヨを守る会、埼玉県魚類研究会

〈内 容〉池の水を抜き、生体を回収。種類ごとに分別し、数を数える。今年度は111匹のムサシトミヨを確認した。池の清掃、水草の補充を行った。ムサシトミヨ雌雄10匹ずつ池に放流し1年間保護増殖活動を行う。殖えたムサシトミヨを元荒川へ放流した。

(4) ムサシトミヨ繁殖報告会（2月18日、熊谷商工会館にて）

〈参加者〉後期環境委員代表 4名

〈内 容〉1年間の活動報告を行った。発表内容は、①学校の紹介、②日々の委員会の活動の紹介、③繁殖調査の報告、④反省と来年度の目標、である。

3. 活動の成果

ムサシトミヨの繁殖活動を継続したことで、自然に興味関心をもち、自然環境の大切さを実感する機会が増えた。その表れとして、学校評価アンケートの記述欄に学校の自慢できるところとして「自然が豊かである」「ムサシトミヨがいる」という記述が増えた。

繁殖報告会では、他校や他団体との交流により、活動の意義を再確認できた。また、埼玉県魚類研究会の方から発表をほめていただき、生徒の活動意欲もより一層高まった。発表に参加した生徒はそこで学んだことを他の委員に報告し、共有した。

4. 今後に残された課題

水槽の購入が遅れてしまったため、早急に設置、運転を開始する。今年度、市内の小中学校では水槽内での巣作り・産卵・孵化が確認された。本校では令和元年度に水槽内で巣作り・産卵まで確認できているので、新しい設備で孵化・増殖を目指す。